

民生病院常任委員会審査概要報告書

委員長 梅島 清香

- I 開催年月日 令和 8 年 7 月 27 日（月）
II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 1 時 37 分
III 出席委員等 [出席委員] ◎梅島 清香 ○高岡 宏和 山野井拓也
高木 敬介 中川加津代 上田 武
本田 利麻 水口 清志
(◎…委員長 ○…副委員長)
〔議長〕 曾田 康司
〔副議長〕 中村 清志
〔説明員〕 別紙名簿のとおり（福島市民病院長が公務のため欠席）
〔委員外議員〕 水越 進一
〔事務局職員〕 松本 武司 竹田 裕子 越田 裕喜
〔傍聴者〕 1 名

IV 審査の概要

- 1 生活環境文化部長から、生活環境文化部職員が同僚職員への暴行や暴言によって、令和 8 年 7 月 1 日付けで、懲戒処分を受けたことについて陳謝があった。今回の事案を受け、所属職員に対し、改めて公務員としての自覚と高い倫理感を持つよう強く求めたとの説明があった。

〔生活環境文化部〕

- 。脱炭素先行地域の進捗について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【脱炭素先行地域の進捗について】

- オンサイト P P A、オフサイト P P A、Z E B 化、省エネ化事業等に関連して、全体的な確認をしたい。脱炭素先行地域提案計画に必要な事業について、市民や事業者が主体となって、行政はそれを支援する取組が多く、事業者の負担も非常に大きいとのことだった。特に Z E B 化については、事業者の判断で、断念に至っているものと理解した。行政が主体的に取り組んだとしても、計画通りに事業が進むものではないと受け止めている。そこで 2 点質問したい。1 点目は、オンサイト P P

Aの進捗停滞やZ E B化の断念によって先行地域の計画にどのような影響があるのか。2点目は、その上で、目標年度におけるCO₂の削減量や交付金事業の達成度はどの程度となる見込みか。

△ まず、1点目の計画への影響については、本事業の大半が、個人事業主や市民などの民間の取組が中心となっている。オンサイトP P A、ソーラーパネルの設置については、家屋などの構造上の課題により、進捗が停滞している。今般、再生可能エネルギーの切り換えについて、環境省と計画変更を協議した。Z E B化は、多額の投資が必要であるということで断念に至ったが、再生可能エネルギーを導入することを条件に、省エネ化の機器更新に交付金を使うことを認められた。計画通りに進まない事業については、環境省と連携を図りつつ、その都度計画変更を認めてもらっている。目標のCO₂削減量並びに交付金の総事業費などにも大きな影響が生じることを見込んでいるが、民間が主体となる事業が多いため、本市としては、今後も民間の行動を応援する形で、柔軟に計画変更の協議を環境省と進めていきたい。

2点目のCO₂削減量の見込みについては、2030年度に目標を達成することが、かなり厳しい現状である。この秋に中間評価を受けることになっており、交付金事業の達成度については、現時点の集計で10数パーセントの進捗を見込んでいる。脱炭素先行地域の事業は全国的にあまり進捗が良くないこともあり、各自治体が計画変更をしながら様々な努力をしている。本市も計画変更をしているが、その中でエコクリーンセンターの電力の切り換えについては、令和8年4月から6月末までに200件の切り換えを達成できたことで、環境省から高い評価をいただいております。どのような手法で取り組んだのかについてのヒアリングも受けている。しかし、それをもって安心するのではなく、当初の計画にあるCO₂の削減量に少しでも届くよう、これからも努力していきたい。

△ 計画策定の際は、大きなビジョンを思い描いて計画したものと理解している。民間事業者や市民など、協力している関係者が非常に多い計画である。実現可能性やできない理由、どうすれば高岡に合わせてうまく進めていけるのかを、今後も現実的な視点に基づいて、説明していただきたい。(要望)

○ 堺市では、まちなかだけではなく、郊外にある工場の屋根にも太陽光パネルを設置していると聞いた。本市と堺市は、ものづくりのまちということで共通点が多く、本市の郊外にも多くのアルミ関連会社等があるため、工場の屋根に太陽光パネルを設置して、脱炭素に寄与する方法もあると考えるが、見解は。

△ 建物の築年数や構造的な問題等がクリアでき、なおかつ、企業や事業者の理解が得られるならば、そういった道もあると考えている。様々な事例を参考にしながら、有効と思われるものは、今後前向きに検討を進めていきたい。

○ 市から、企業や事業者に理解していただけるような努力をしていただきたい。(要望)

○ 本市は、埋め立て処分場、中田配水場を後から追加して、計画変更している。堺市はそうした対応ができなかったため、民間施設の屋根を使うことで拡張したとのことである。中心市街地のオンサイトP P Aができないのであれば、堺市に比べて面積がはるかに広いことを活用して、郊外のオフサイトP P Aをすればよいのではないかと。堺市に感じたのは、当局あるいは市長自らが脱炭素を総合計画の中に織り

込み、市民も巻き込んで取り組んでいる力強さだった。オフサイト P P A を広げるのであれば、計画変更も必要になってくる。待っているだけでなく、例えば北陸電力と連携するなどしつつ、早急に取り組んでいただきたい。(要望)

△ 総合計画での記述については、令和 8 年 6 月定例会でも質問があり、基本計画の中である程度具体的に示すという話もあった。脱炭素先行地域にかかる事業も今後計画の中にある程度盛り込むことを考えている。具体的な取組を進める中で、北陸電力等、様々な関係事業者に対して、どのような手法が脱炭素の取組に有効なのかについて意見を伺いながら進めていきたい。目標の達成見込みが厳しいという話もあったが、計画の最終年度まで諦めることなく、どうすれば少しでも進めることができるのかを考えていきたい。

○ 先ほどの答弁の中で、他の自治体もなかなか進んでいないという話があったが、そういう言葉は出さずに、市として前向きに進んでいただきたい。オンサイトの話の中で、ウイングウイング高岡と御旅屋セリオが検討しているという話があったが、これはできる見込みがあるのか。

△ 両ビルともエネルギー機器の更新時期に来ており、当初は、それに合わせて Z E B 化のための総入れ替えを計画していた。あまりにも投資額が大きいため、Z E B 化は実行できないが、省エネ化の機器更新に交付金が出るため、令和 9 年、10 年の計画として両ビルともに検討を進めている。環境価値つきの電力を導入しなければならないため、ランニングコストは多少上がるが、イニシャルコストに対し交付金が 3 分の 2 充当されるということで、バランスを見ながら、導入に向けて調整している。

○ 先月、ウイング・ウイング高岡で話を聞いたときに、ちょうどエアコンの更新時期に来ているという話もあった。高効率のものに変えることは、ランニングコストの低減にもつながる。一方で、環境省以外にも富山県等の補助金も出てくると思うので、多様な視点で進めていただきたい。また、御旅屋セリオの環境啓発拠点の実施設計を 8 年 6 月からしているという話だったが、実施設計は、いつまでに完了して、いつから工事する予定なのか。

△ 環境啓発拠点のスケジュールについては、8 年 12 月には実施設計を完了したい。あくまで計画であるが、補正予算もしくは新年度予算の対応を認めていただければ、9 年度から工事着手し、その後、運営管理のプロポーザルを終えて、10 年の春にオープンしたいと考えている。

○ オンサイト P P A について、地域内で手を挙げる人が少ないという話があった。築年数が古くて太陽光パネルが乗せられない、あるいは雪の影響というのもあると思うが、そうしたことは蓄電池にはあまり関係ない。様々な方の話を聞いたところ、蓄電池を使っているとほぼ電気代がかからないとのことである。投資にはお金がかかるが、ランニングコストはほとんどかからず、導入にあたっては交付金を使えるといったメリットを市民に対してどんどん示してほしい。あるいはデコ活という言葉もあるが、そういったものを当局から市民に広めていただきたい。堺市は、先行地域事業の総予算額が 30 億円程度と聞いているが、高岡は 55 億円である。堺市以上に、頑張っていかなければならない。国家プロジェクトにつながるものだという事を踏まえてやっていただきたい。(要望)

- △ 様々な事業の効果、メリットについては、市として、PRしてきたところだが、事業の進捗率上げるために、更なる努力をしていきたい。
- 脱炭素先行地域事業は、特定の民間企業等が中心になっているため、市の事業として、どのように取り組んでいるのかを市民に対して周知し、理解いただくことも非常に重要である。その上で、今後の取組として、来る 11 月に御旅屋人マーケットで、環境啓発イベントを開催することだが、具体的にはどういった方々を対象とした、どういった内容のイベントで、どのように周知を図っていく予定なのか。
- △ 富山県では、毎年環境フェアを開催しており、7 年度は高岡市が開催会場だったが、8 年度は、富山市が会場ということで、高岡市内における大きなイベントがない状態である。そのような中、啓発につながるイベントとして、御旅屋人マーケットを活用したイベントを開催する。基本的に子どもに向けた環境イベントをしたいと計画している。そのため、市内の小学校に、全児童分のチラシを配布して、事前に募集を図る予定である。具体的な事業の中身は、パソコン等の身近な製品から資源価値の高いものを探しあてるイベントを考えている。子どもが好きそうなことをきっかけに、親も巻き込んで、リサイクルや脱炭素の考え方を浸透させていきたい。10 年春に環境啓発拠点が運用開始となった後は、こうした方々たちに足を運んでもらうことで、高岡市の環境啓発や企業のサーキュラーエコノミーの取組の理解につながることを常時体験できるようにしていきたい。
- 堺市の視察では、トップダウンで指揮命令が力強いと、事業が活性化されるような印象を持った。高岡市は体制が変わったが、当局として、この脱炭素先行地域の推進に向けて、改めて基本的な姿勢とそれに対する意気込みは。
- △ 市長交代で体制は変わったが、脱炭素の取組自身については、高岡市の 1 つの目玉事業であると考えている。先ほども述べたが、見通しとして現状の進捗率は厳しい。計画期間終了まではまだ時間があるため、その間は、少しでも効果を上げられるように努力していきたい。ほとんどの事業が、市民や事業者、企業のご理解、ご協力が前提であり、少しでもそういった気持ちになっていただけるように、PR、啓発活動に重点的に取り組んでいきたい。
- 本計画については、前市長のときに、策定されたものであったが、市長交代後も、継続して取り組んできた中で、いよいよ現実的な数字が示されたものであり、市長が誰であるとかは関係ないことだと捉えている。できる、できないリスク、そして民間、市民への影響というものを深掘りした上で、現在示されたものと捉えているが、その認識で合っているか。
- △ 現状が厳しいことは、先ほどから、ずっと申し上げてきたところであり、行政の事業施策については、その継続性も 1 つの重要な観点であると考えている。計画については、市とカーボンニュートラル推進協議会との共同提案であり、様々な民間企業と協力して、最後までしっかりと取り組んでいきたい。

2 その他

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

民生病院常任委員会 当局説明員（２８名）

生活環境文化部長	村 上 彰	市民病院長	福 島 亘
生活環境文化部次長 市民生活課長	中 保 哲 憲	市民病院事務局長	長 谷 川 聡
生活環境文化部参事	須 田 稔 彦	総務課長	塩 谷 慎 久
環境政策課長	割 田 一 郎	医事課長	山 本 明 宏
脱炭素推進課長	中 川 正 人		
地域課長	長 井 剛 志	消防長	有 澤 智 文
文化国際課長	吉 本 恭 子	消防本部次長	布 橋 隆 男
男女平等・共同参画課長	徳 市 直 之	消防本部参事 通信指令課長	沙 魚 川 文 春
市民課長	窪 田 真 寿 美	総務課長	田 中 秀 和
		予防課長	蔭 浦 幸 雄
福祉保健部長	新 田 裕 子	警防課長	佐 野 吉 英
福祉保健部次長 こども家庭センター長	森 川 朋 子		
福祉保健部参事	関 原 総 臣		
社会福祉課長	今 方 順 哉		
社会福祉課 福祉連携推進室長	大 野 美 喜 子		
子ども・子育て課長 保育・幼稚園室長	竹 内 文 雄		
長寿福祉課長	塩 谷 宜 子		
保険年金課長	水 野 篤 美		
健康増進課長	島 田 輝		